

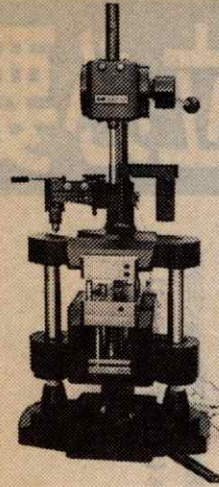
日経産業新聞

発行所 日本経済新聞社
 東京本社 〒100-6600(03)270-0251
 東京都千代田区大手町1-9-5
 振替口座 東京 3-555番
 大阪本社 〒540(06)943-7111
 大阪市中央区大手前1-1-1
 振替口座 大阪 2-73217番
 西部支社 〒812(092)473-3300
 福岡市博多区博多駅東2-16-1
 振替口座 福岡 1-1248番
 名古屋支社 〒460(052)322-2561
 名古屋市中区正木2-3-1
 振替口座 名古屋 3-6149番
 札幌支社 〒060(011)281-3211
 札幌市中央区北1条西7-3
 ©日本経済新聞社 1990

新興セルビック

超微量でも射出成型

新素材研究用の卓上機



新興セルビックの「ハンデイトライ・デスクタイプ」

金型メーカーの新興セルビック(本社東京、社長竹内宏氏、資本金五百万円)は樹脂、セラミックスなど新素材の研究用に、五ヶ程度の超微量でも試験材料を成型できる卓上射出成型機を開発した。プラスチックの中で化学反応させてきた素材でも成型でき、曲げ試験などの評価が即座に可能。従来の射出成型機では少なくとも一ヶ以上の素

材が必要で、コスト面などからすべての素材の評価試験をすることができなかった。商品名は「ハンデイトライ・デスクタイプ」。円筒状の容器に試験用の樹脂、セラミックスなどの素材を入れヒーターで溶かした後、タンベル(試験用の平板)用の専用金型に手動で射出する。手動の簡易タイプだが、金型の型締め、型開き、製品取

り出し機構など射出成型機の基本機能を備えている。また高分子材料などの新素材は特に高温での温度調節が必要。金型内の素材の温度を四百五十度までプラスチック一度の範囲で調節できる専用の温度調整機構を標準で装備した。価格は専用金型など付属品を含めて二百二十万円。樹脂やセラミックスの新素材は一九九〇年の研究所で実用段階に至る前のものが毎月三千種類ほど開発されている。しかし、微量の新素材を従来の射出成型機に必要なキ口単位の量までつくるには、外部の専門の業者に依頼して一つの素材につき十数万円以上の多額の費用が必要。この

ため特に有望と思われる素材だけをタンベルに成型して、曲げ強度、引っ張り強度などの評価試験をする。開発した素材の八〇％は評価せずに廃止してしまうのが現状だ。この卓上射出成型機の活用で、従来費用の面から廃棄処分していた新素材の中からも実用化の可能性のある素材を掘り起こすことができる。これにより新素材の開発を大幅に促進できるといふ。大学、化学メーカーなどの研究所向けに月間五台の販売を見込んでいます。